

7月

園だより

平成27年6月26日
佛教大学附属幼稚園

今日を、いい日にしよう

園長 藤堂俊英

時おり子どもたちにこんな話をします。朝、目が覚めてから幼稚園にくるまで何回くらい「おはよう」「おはようございます」を言ったかな？ 朝のあいさつを誰かにしてあげると、その誰かもまた朝のあいさつをしてくれるよね。すると何だか元気をもったり、元気をあげたりしているみたいで、明るい、あったかい、いい気持ちになれるよ！

性格の違うもの同志、世代の違うもの同志が「住み合う」ところを「住まい」といいます。家庭であれ、職場であれ、町内であれ、国と国であれ、自然と人間社会であれ、住み合うための工夫が必要です。ヒトの歩みはある意味で、その工夫の歴史であったといえます。

インドの梵語で「住まい」はniraya(ニラヤ)、スペルは少し違いますが、「地獄」はnilaya(ニラヤ)と言います。語呂合わせのようですが、住み合い方を誤れば、その住まいは一転して地獄にもなりかねないという警鐘でしょう。

ところで「工夫」の「工」という字の上下の横「一」は、天と地を表し、それをつなぐ縦の「丨」は、天地の間に住まう人間の暮らしが天地の運行のように「正しくあろうとする」姿を表しています。一方の「夫」は「扶」、つまり「たすける」ことを表しています。したがって「工夫」は、天地の間に住まう私たちの暮らしが正しくあるように扶ける思慮の大切さを訴えている言葉ということになります。

以前この園だよりに、赤ちゃんの「あ～ん」の泣き声に圧縮されている「あ」から「ん」までを言葉にして聞き取るおかあさんってすごい！ という谷口和彦さんの詩を紹介しました。谷口さんの詩は東日本大震災の地や各地の小学生また大人に、共に前向きに歩もうというメッセージを発信し続けています。佛教大学附属幼稚園のホームページに掲載されているこの園だよりの文がご縁となって、ご本人から「今日を、いい日にしよう」という次のような詩をプレゼントして頂きました。

いい日とは
だれでもいいさ、だれかに
『ありがとう』といわれた日さ
いい日とは
だれでもいいさ、だれかに
『ありがとう』と素直にいえた日さ
心がはれて きぶんのいい日さ
いい日とは だれにでもできる
かんたんなこと
かんたんにわすれる
おつかしいこと
みんなで今日をいい日にしよう



幼稚園はもうすぐ長い夏休みに入ります。今日一日をいい日にする工夫を凝らすその姿を、なにげないぐさや言葉がけを通して子どもたちに伝えて行きたいものです。身をもって実感した知は、また子どもたちによって次の世代に伝えられていくに違いありません。

